

# 社会に「持続可能な印刷物」の文化を 金沢市の百年企業の挑戦



100枚のポスターを作るために300枚の紙を使う「常識」の変革を。日本初の「水なしEco-UV印刷」を実現したサステナブルカンパニーが示す【紙と印刷】のこれから。

AIやIoTの進化と歩調を合わせて進展するSDGs社会。民間企業の事業でも持続可能性が問われる時代となったが、その象徴が「ペーパーレス化」だ。ビジネスシーンでもスマホとタブレットを活用する機会は確かに増えたが、それでも「紙」はまだまだ現役。特にプロモーションや顧客とのコミュニケーションの現場では、依然として手放せない存在であり続けている。

環境保護の風潮が高まるにつれ、印刷業界もさまざまな対策を行ってきた。ひと昔前の再生紙が代表例だが、現在はさらに進歩している。

「Y.P.G.」ブランドを掲げる金沢市のヨシダ印刷は、時流の変化を自社の進化へと繋げてきた印刷会社だ。紙の卸商としての創業から実に117年の社歴を誇る老舗で、戦後は文化産業の担い手として一般家庭や学童向けの印刷物を製造。高度成長期には高品質な美術印刷・商業印刷で評価を高め、現在はグループ3社でデジタル&クラウド分野にも業容を拡大している。

終戦直後は焼け野原の東京に進出して復興に貢献した企業だけに、時代への対応力は筋金入りだ。環境問題についても実に30年以上も前から取り組んでおり、有害な廃液を出さない日本初の「水なしEco-UV印刷」の開発をはじめ、すでに多数の実績を築いている。また、森林認証紙の利用のほか、メーカーと共同開発した水なしUVインキや針金を一切使用しない製本方法を導入など、独自の環境印刷システムを確立。その徹底ぶりは、発注企業側のCO2削減活動までアシストできるレベルにまで達している。

発注者のSDGs活動にまで貢献する徹底した環境印刷システム



太陽光パネルを設置して  
自社工場の電力を補っている!

近年は、無駄を排除する新しい印刷技術の開発・推進に力を入れる。たとえば100枚のポスターを印刷するには300枚の紙を使うのが業界の常識だが、同社のデジタル印刷ではこの無駄を大幅に削減することが可能だという。また、百年企業として蓄積してきた印刷・加工への技術・知見・経験をフル活用した付加価値提案も活発だ。自社ブランド「吉田次作商店」では、繊細なデザインにも対応可能な最新鋭のレーザー加工機を駆使した紙製の「ハンドサインクリップ」が人気に。エコな環境と工程で作られた紙製品は、廃棄のしやすさも相まって、今後も注目を浴びそうだ。

何かと厳しい目で見られがちな印刷業界にあって、新たな風土づくりの牽引役を期待したいサステナブルカンパニー。印刷物需要が発生した際には、見

積依頼・資料請求とともに、SDGsへの取り組み方を相談してみたい企業だ。

培った百年技術を  
未来の紙文化へ  
印刷業界の  
サステナブルカンパニー

嬉しいキモチ伝える/  
ハンドサインクリップ

環境に優しく丈夫な紙製クリップ

吉田次作商店  
SINCE 1906  
オンラインサイト

# Y.P.G.

ヨシダ印刷株式会社  
株式会社ヨシダ洋紙  
ワイピービズインブルー株式会社

金沢/石川県金沢市御影町19-1  
東京/東京都墨田区亀沢3-20-14  
関西/大阪府大阪市淀川区西中島5-8-3  
新大阪サンアールビル北館6階

TEL.076-241-2141  
TEL.03-3626-1301  
TEL.06-6305-7888

HP <https://www.ypg.jp>



1906年	紙の卸商として創業
戦前	軍部・官公庁の需要に応じて印刷事業も開始
戦後	「文化産業・平和産業」として一般家庭・学童用印刷物を製造、焼け野原の東京にも進出(1945年)
1953年	金沢本社工場火災 工場が全焼した後、需要が高まっていた美術印刷・商業印刷に切り替え再興(高度経済成長期)
1992年	環境配慮を目的に印刷時に廃液を出さない「水なし印刷」に取り組む
2012年	日本初の「水なしEco-UV印刷」を確立
2016年	IT需要の高まりに応え、デジタル分野に事業拡大、分社化
2022年	太陽光パネルを東京潮見工場に設置、電力の一部をまかなう
2023年	カーボンニュートラルの実現に向けて「カーボンオフセット印刷」取り組みを開始